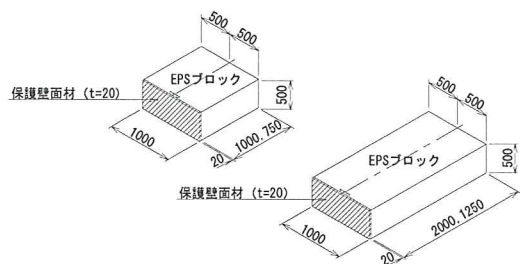


技術概要（様式）

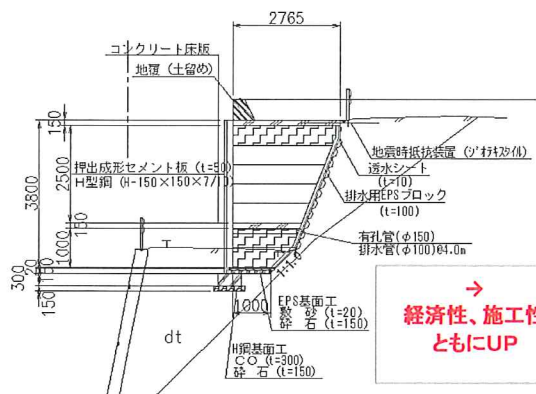
技術分類	安全・防災 維持管理 環境 <u>コスト</u> ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）								
技術名称	EDO-EPS工法 ウォールブロック工法	担当部署	福岡営業所						
NETIS登録番号	QS-040024-V	担当者	又木 健次						
社名等	株式会社 J S P	電話番号	092-411-6854						
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 軽量盛土工法の1つであるEPS工法は、軽量性、耐圧縮性、耐水性、自立性に優れており、その特徴を生かして軟弱地盤上の盛土材や橋台、擁壁の裏込め材として土木工事に広く使われています。EPSで道路の拡幅盛土等を行った際、EPSブロックの紫外線劣化防止等の目的で、保護壁は不可欠です。ここでは、この壁面を効率的に構築する新しいEPS工法「ウォールブロック工法」を紹介します。 2. 技術の内容 ウォールブロック工法は、従来の壁体（H鋼支柱+セメント板+基礎）付きEPS軽量盛土工の施工性、経済性をそれぞれ向上させた工法で、EPSブロックに軽量モルタルを直接接着し、壁体と盛土を同時に施工出来るようにした壁体一体型軽量盛土工法です。その結果、EPS軽量盛土工法での発泡スチロール保護用の壁体（壁面材）を安く、早く、簡単につくる事ができ、従来のH鋼支柱保護壁タイプが持っていた以下の問題点を解決できます。Ⅰ.H鋼支柱にセメント性の重たい壁材を取付けた物であり、運搬や搬入、設置に伴う施工性の問題 Ⅱ.部品数の多さやそれに伴う設置手間等のコストの問題。Ⅲ.支柱設置に伴う機械の騒音、振動。 3. 技術の効果 EPSブロックと壁面が一体構造であるため、ブロックを積層することにより、道路などの盛土も壁体も、同時に作る事が出来ます。その結果、工期の短縮、経済性の向上、施工時の機械の騒音や振動の抑制、用地制限や大型重機搬入が困難な山岳地帯や官民境界の制限が厳しい場所でも施工が可能になります。 4. 技術の適用範囲 ・高さ20m以下の道路（車道、歩道）の盛土 ・特に重機が入れない山間部や境界などの制限が多い都市部 ・EPS工法同様に形状により耐震設計が必要となる（$H/B > 0.8$、$H > 6.0\text{m}$の場合） ・ただし、高さ20mを越える盛土や水位が盛土をオーバーフローするような場所や常時水につかるような場所では要検討 5. 活用実績 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">国の機関</td> <td>97件（九州 15件、九州以外 82件）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>384件（九州 97件、九州以外 287件）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>47件（九州 13件、九州以外 34件）</td> </tr> </table>			国の機関	97件（九州 15件、九州以外 82件）	自治体	384件（九州 97件、九州以外 287件）	民間	47件（九州 13件、九州以外 34件）
国の機関	97件（九州 15件、九州以外 82件）								
自治体	384件（九州 97件、九州以外 287件）								
民間	47件（九州 13件、九州以外 34件）								

6. 写真・図・表

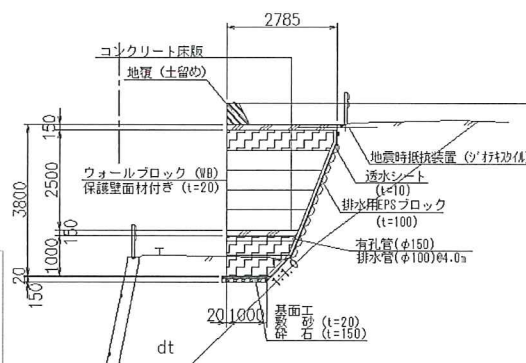


【ウォールブロック工法の標準図面と施工中の写真】

【従来工法】



【ウォールブロック工法】



【ウォールブロック工法の特徴】



【施工例の写真】